



炎暑の毎日ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

中国宋代の禅問答公案集に「碧巖録（へきがんろく）」がありますが、その四十三則に「洞山無寒暑（とうざんむかんじよ）」が出てきます。ある時、洞山良价禪師に一人の僧が質問をします。「寒さや暑さを、どう回避したら良いでしょう」洞山禪師は「寒暑がいやなら寒暑の無い所に行け」と答えます。それを聞いた僧は「一体どこにありますか」とさらに問います。すると禪師は一喝して「寒時は閻梨（じやり）を寒殺し、熱時は閻梨を熱殺す」すなわち、厳寒時には自己を殺し、酷暑には自己を殺し尽くせと示しました。さて、自分を殺すとは一体どういうことでしょうか。

私たちは寒にしろ暑にしろ、生老病死にしろ現状から逃がれようとすれば苦が生まれます。寒には暖を、暑には涼をとるという具合に二念が湧き比較迷苦してしまいます。初一念に徹すること、現況に浸りきることに、いや、やはり死に切るとしか言いようのない寒と一枚、暑と一枚になる、それ以外にはないのです。ところでこれは禅問答の問題の一つですから「無寒暑」の心境を示して答えるてはなりません。さあどう答えるか。右の説明のようなことを語り始めれば老師さまから「それは理屈ぢや」そんなものは屁の足しにもなりやせんわい」と怒鳴られてしまいます。ここで良寛さんのお話をしましょう。良寛さんは文政十一年の越後地方を襲った大地震の折、被災した親友の山田杜阜（とこう）にあてた手紙の中で

『災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候 死ぬる時節には死ぬがよく候

是はこれ災難をのがるる妙法にて候 かしこ』

と見舞いの心中を綴られたそうです。「よく候」は善悪ではなく、「それ以外にはない」ということとです。これほど慈悲に充ち満ちた見舞いはないのではないのでしょうか。

第44回 方広寺夏期講座 (平成30年)

- ◆期 日 平成30年8月26日(日) 9:30受付 10:30開講
- ◆会 場 臨濟宗大本山方広寺 本堂
- ◆対 象 一般市民
- ◆定 員 400~500名(申し込み先着順。定員に達し次第受付終了)
※会場の都合上、一部講師が見えにくい場所があります。予めご了承下さい。
- 参加費 3,000円(弁当付)、5,000円(精進料理付)
- ◆申込期間 6月15日~8月20日(定員になり次第締め切らせていただきます)
- ◆お申込み 方広寺または方広寺派寺院へお申し込み下さい。(参加費は当日お支払い下さい)

午 前	午 後
開講式 (10:30~10:45) 読経 (般若心経) 挨拶 方広寺派宗務総長 巨島泰雄	第2講 (13:00~14:15) 「直虎と禅語」 講師：龍雲寺住職 細川晋輔師 
第1講 (10:45~12:00) 「妖怪禅問答 - 中国のドッベルゲンガー」 講師：方広寺派管長 安永祖堂老大師 	第3講 (14:30~15:45) 「歌舞伎よもやま噺」 講師：歌舞伎役者 市川左團次丈 
昼食 (12:00~13:00)	閉講式 (15:45~16:00)

■大本山方広寺への交通案内

<バスでお越しの方>

JR浜松駅より北口へ出て、バスターミナルへ。
15番乗り場より45番線「市役所 奥山」行き乗車。
約60分乗車後、「奥山」バス停下車。

<自動車でお越しの方>

新東名「浜松いなさIC」より約8分。東名「三ヶ日IC」より約30分。
県道68号線「奥山」信号を西へ。公営無料駐車場あり。

※当日は混み合いますので、なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

主 催

大本山方広寺

〒431-2224 浜松市北区引佐町奥山1577-1

☎ 053-543-0003

FAX 053-543-0249

後 援

静岡新聞社・静岡放送
中日新聞東海本社
奥浜名湖観光協会

受講申込書 (以下をご記入の上、方広寺へFAXまたは郵送でお申し込み下さい)

【参加費についてご選択ください】

1. お弁当付(3,000円)
2. 特別精進料理付(5,000円)

※どちらかに○印をつけて下さい。

(〒)
住所
氏名 他 氏名 (合計 名)
電話 ()